

令和元年度四国地域エネルギー・温暖化対策推進会議 支援プロジェクト

	プロジェクト名及び概要	応募者名・団体名	支援してもらいたい内容
No.1	【徳本あんず復活プロジェクト】 小豆島の坂手地区で戦前から戦中にかけて盛んに栽培されていたが現在は衰退してしまった徳本あんずという品種を、数年前から坂手地区のんごんクラブと香川大学の小豆島SAKATEプロジェクトが手を組み、復活を目指してきた。 今年度は草刈りや剪定などの従来の活動に加えて、「持続可能な栽培を目指した地域農業のモデルづくり」を目標に、減農薬栽培、有機肥料の積極的な施用などに取り組んでゆく。(例:緑肥としてヘアリーベッチを植える。多感作用で雑草の繁殖を抑制し、窒素固定を行うことで土中の栄養分固定にも役立つ。) そのモデルづくりの一環として、高松市消費者団体より講師の方をお呼びし、段ボールコンポストを用いた各家庭での堆肥づくりについての周知・呼びかけを行った。段ボールコンポストを用いて堆肥づくりをすることで家庭ごみを減らすことができ、その堆肥を用いて農作物の栽培を行うことで循環型の農業を行うことができると考えている。 また、授粉用の苗や徳本あんずを増やす際の接ぎ木をした苗などを地元の小中学校生などの比較的若い世代に声掛けを行い植え付けを行ったり、開催期間終盤には本プロジェクトの振り返りやポスター発表をするなどの共同作業を行うことで循環型農業への理解を幅広い世代へと広げていく。現在は比較的高い年齢層の方ばかりにこのプロジェクトに協力をいただいている状況なので、これらの活動を通して多世代型の地域循環型農業のモデルづくりを進めていきたいと考えている。	小豆島SAKATEプロジェクト	開催における名義後援、参加者募集のための周知・呼び掛け
No.2	【ともにキッチンプロジェクト】 香川大学学生ESDプロジェクトSteePは、環境問題に対する学習及び、地球温暖化防止活動の普及・啓発をしている学生団体であり、メンバー全員が地球温暖化防止活動センターから香川県学生地球温暖化防止活動推進員に任命されて活動しており、また、平成29年度から香川県食品廃棄物削減推進協議会の後援を受けて、「みんなで楽しく料理をしながら食品ロスについて考えよう!」というコンセプトのもと、食品ロス削減イベント「ともにキッチン」を開催している。 現在、瓦町FLAGで月一回と定期的に開催しており、募集人数は毎回15名程度である。ともにキッチンは、開催日当日に廃棄される予定の食材を地元スーパー(現時点では、新鮮市場きむら様、マルシェきむら様)から提供していただき、その食材を見ながら参加者全員で作る料理を考え、みんなで協力しながら作り、参加者同士との交流を図りながら、食品ロスについて考えようというイベントであり、家庭でも食品ロス問題に取り組んでもらうきっかけになると考えている。 その一方で、ともにキッチンでは少しずつ参加者が増えていっているが、まだ認知度が高い取り組みとは言えないのが現状である。これからも月一回のペースで瓦町FLAGでともにキッチンを、また地域からのご要望があればコミュニティーセンターや公民館などで出張とともにキッチンを継続的に開催する予定である。	香川大学学生ESDプロジェクト SteeP	開催における名義後援、参加者募集のための周知・呼び掛け
No.3	【第3回食品ロス削減全国大会 徳島大会】 徳島県では、「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動推進条例」(愛称:すだちくん未来の地球条例)に「食品ロス削減」を規定し、「おいしい徳島!食べきり運動」の実施等を通じて、積極的な啓発活動を展開しています。 平成29年度には、「消費者庁・消費者行政・新未来創造オフィス」と連携し、「消費者目線」、「現場主義」の実証フィールドとして、県内約100世帯の御協力により、食品ロス削減の知識習得の効果を分析する「モニター実証実験」を実施しました。 平成30年度には、この「実証実験」で得られた成果を基に、東部・南部・西部の県内3圏域での「食品ロス削減セミナー」や環境配慮型・エシカル消費講座など、より進化した普及啓発活動を展開してきました。 また、徳島市においても、全国の自治体が参加する「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会(注)」に徳島県内の市町村の中でいち早く参加し、食品ロス削減を呼びかける「三角ポップ」などの啓発グッズの作成など、食品ロス削減に向けた取り組みを進めてきたところです。 こうした中、徳島県及び徳島市では、食品ロス削減に向けた全国的な機運の醸成を図るため、10月に「第3回食品ロス削減全国大会 徳島大会」を開催いたします。この大会の開催を契機として、食品関連事業者において、ICTを活用した在庫管理の徹底による食品ロス削減の可能性を探るとともに、「フードバンク」や「こども食堂」などとも連携を図り、「食品ロス削減」と生活困窮者対策の複数の課題の同時解決につながる取組みや、食品ロス削減に積極的に取り組む事業者を認定する協力店認定制度の創設により、消費者だけでなく多様な主体による取組の推進を積極的に展開することとしています。	徳島県 徳島市	キャンペーン開催における名義後援、参加者募集のための周知・呼び掛け
No.4	【うどんまるごと循環プロジェクト】 「うどんまるごと循環プロジェクト」は、2012年1月に設立、運営を開始し、「うどんをまるごと循環させる」を基本コンセプトとして、「うどんからうどんを作る」を合言葉に、うどんや食品廃棄物からバイオガスを生成しうどん発電を行ったり、バイオガス等を生成した後に残る残渣(カス)から生成される液肥(消化液)を使って、うどんの原料の小麦やうどんの薬味となるネギなどを試験的に栽培し、うどんから生まれる低炭素社会モデル、循環型社会モデルの構築を進めてきた。 2014年度には、「うどん発電」を導入することにより、従来バイオマスでは実現困難とされてきた採算性を確保するとともに、香川県内にこのモデルを浸透させるため、小中学生に対する環境教育を実施することを中心として取り組んできた。 こうしたことを踏まえ、2015年度以降は、これらの取組を更に発展させるため、①うどんまるごと循環システム・モデルの構築(完成)、②市民、学校等への全民的な普及啓発、③市民、企業、団体等による参画、を積極的に推し進めることにより、地球温暖化防止等に資することを目的としている。 2019年度からは、さぬき麺業で製造される規格外商品を坂出市社会福祉協議会や障がい者福祉施設にフードバンク活動として提供し、生活困窮者の方々に配布したり、子ども食堂で活用してもらっているなど、新たな取組に着手したところである。 プロジェクトが目指す「うどんゼロ・エミッション」に向け、県民や企業等が「廃棄物は資源・エネルギー」であるという基本コンセンサスを得ていくことが重要だと考えており、このための意識を変換することがテーマとなっている。	うどんまるごと循環コンソーシアム	イベント等における後援名義、募集のための周知・呼びかけ等